

24年度中の刊行目指す

オンラインで基本方針確認

【徳之島総局】伊仙町誌編纂審議会(石上英一委員長)東京大学名誉教授)は5日、同町歴史民俗資料館で第1回審議会を開いた。大久保明町長、大山惣二郎教育長ら関係者15人が出席。石上委員長ら委員計5人がオンラインで参加して編纂の基本方針について意見を交わした。現段階では町誌は今年度から2024年までの4年間で完成を目標としている。

伊仙町誌編纂審議会

伊仙町誌は前回は1978(昭和53)年に刊行。編纂基本計画案では町制60周年を迎える24年に向けて同書の復刻のほか、その後40年以上の追録、写真や図版の追加、データのアーカイブ(保存・活用)化や歴史館ホームページとの連動などを企画している。

意見交換で大久保町長は「近年の大きな変化は徳之島の若者がふるさとへ誇りを持てるようになったこと。将来の子どもたちが島に生まれたことに誇りを持つような内容が望ましい」と要望を述べたほか、委員からは「誰のための町誌かを明確にすべき」「各

集落の変化や、継承が難しくなりつつあるシマグチ



計20人が基本方針について意見を交わした第1回伊仙町誌編纂審議会＝5日、伊仙町歴史民俗資料館

(方言)も取り上げて」などの意見が挙がった。町誌編纂に当たっては4月1日から歴史館内に編纂室を設置。現在、職員2人を配置しており、今後、専門員1人を追加する。年内に第2回審議会を開き、専門部会の構成や基本方針を固める予定となっている。